

経 営 部 門

愛媛県四国中央市
有限会社熊野養鶏（養鶏経営）

「元気な鶏から最高のたまごが
生まれる」をモットーに直販の実践

平成 20 年度全国優良畜産経営管理技術発表会農林水産大臣賞



熊野憲之社長と夫人の智子さん

昭和 30 年に現会長で社長の父親である熊野俊彦さんが養鶏を開始し、昭和 58 年に県下でもいち早く法人化して(有)熊野養鶏を設立、4 万羽に規模拡大した。平成 7 年には現社長の熊野憲之さんが機械工具関係の商社勤めを辞めて U ターン就農し、翌年には特殊卵「美豊卵（びほうらん）」の商標登録を行い、さらに平成 16 年からは燻製卵、温泉卵などの加工品の生産に乗り出すなど、高付加価値化に努めている。

また、平成 19 年には飼養規模を半分の 2 万羽に減羽して採卵鶏のストレス緩和を図り、直販ボックスを市内外 5 ヶ所に設置したり、卵かけご飯の専門食堂を併設する直売店を開業したり、などで直販比率を高め、高収益な家族養鶏経営を実現している。

(有)熊野養鶏の経営の特徴と評価点を以下に列記する。

①高い直販比率（60％）による高価格販売の実現

直販店の他に、県内 5 ヶ所に自動販売機 25 台を設置することで直販比率を 60％に高め、L サイズ卵 8 個、M サイズ卵 9 個 200 円の高価格での販売を実現している。

②高付加価値生産による高収益性の実現

特殊卵「美豊卵」や温泉卵、塩ゆで卵、燻製卵、プリン、シフォンケーキ、ラスクなどの加工品を生産・販売するとともに、平成 19 年には、卵専門販売店に併設した卵かけご飯専門食堂「熊福」を開店し、経営の 6 次産業化による高収益を実現。採卵鶏は若干産卵率が劣っても国産鶏にこだわり、また破碎米などの給餌による白玉卵を生産して白いプリンや白いオムレツなどの試みも行っている。

③鶏の福祉や安全性へ配慮した生産体制

「美豊卵」の飼料のトウモロコシは、ポストハーベストフリーのものを使用し、消費者の安心感を高める取り組みをしている。また、1 ケージ 2 羽飼養から 1 羽飼養へ切り替えることで鶏のストレスを軽減したり、強制換羽を中止して防疫・衛生状況の改善に努めたりしている。さらに、育すうから自家農場で一貫生産しており、原原種鶏から卵までのトレサビリティシステムを確立している。

④高い生産技術

生産技術は、国産鶏使用でも産卵率 86～89%、日産卵量で 56g など極めて高く、緻密な計数管理も実施している。

⑤飼料の工夫による低コスト

廃棄物である豆腐かすや米ぬかから発酵飼料を製造し、これを 2～3％と、海草粉末もみから炭、ガーリックなど 10 種の副原料を配合するとともに、繊維分解酵素のセルラーゼを添加して、低コストで特色のある飼料を生産して、高付加価値鶏卵の生産に取り組んでいる。また、前述したように、破碎米などをトウモロコシに完全代替した飼料を使った白い「黄身」の卵を生産するなどの試みを行っている。

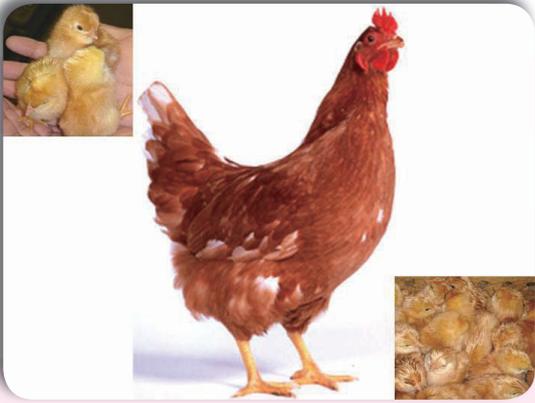
⑥地域の活性化への貢献

平成 20 年には四国中央市の青年農業者協議会養鶏部会長として地域の養鶏振興に寄与している。また社長夫人は、愛媛の畜産女性ネットワーク発起人として、めぐり愛・媛ネットワークの副会長を務めるなど地域の活性化に貢献している。

⑦適正な家畜排せつ物処理

家畜ふん尿処理については、毎日の除ふんに努めるとともに、消臭効果があるといわれている EM 菌、AI-1 菌を鶏ふんに散布するなど適切なふん尿処理に努めている。

活動のようす



▲鶏種は純国産鶏の「もみじ」を導入している



▲卵かけご飯専門食堂併設のたまご専門店「熊福」の店内



▲県内5カ所、25台の鶏卵自動販売を設置



▲卵かけごはん



▲破砕米などを給与した黄身の白い卵で作った「白プリン」

▲鶏卵の品質向上のために使用している自家製の発酵飼料